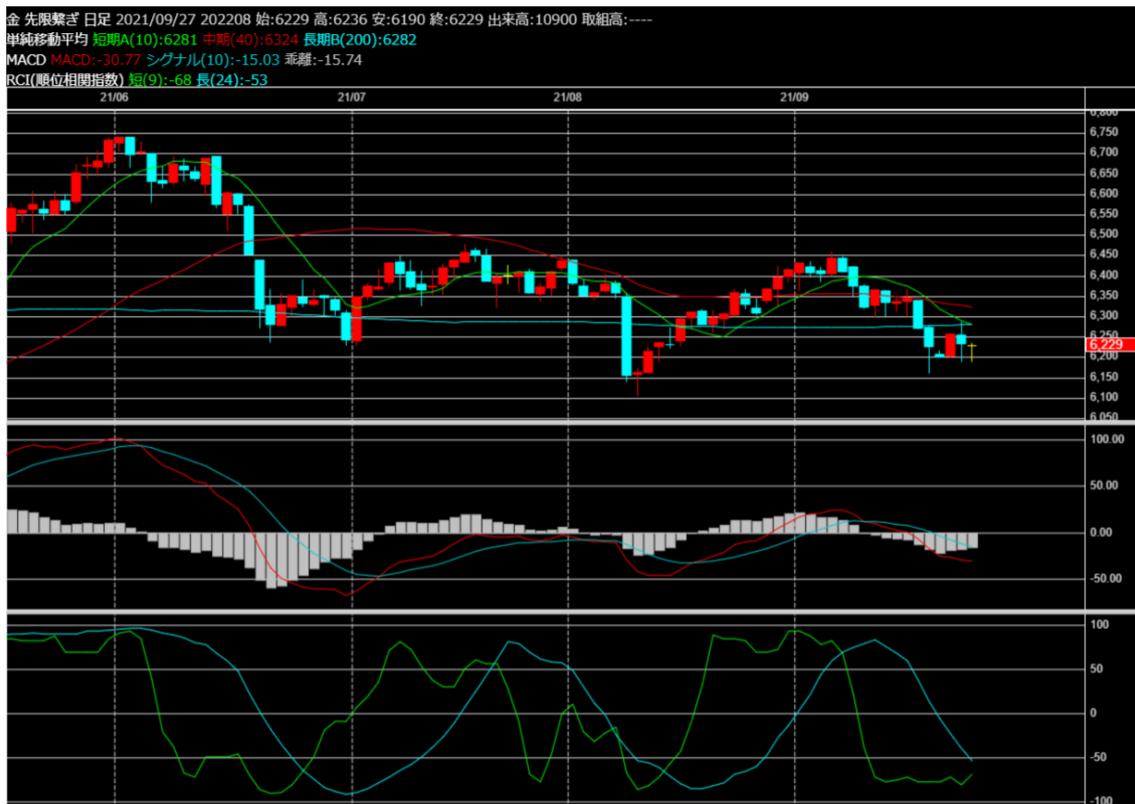


<金標準先物、金利上昇確定で 6250 円以上は戻り売り相場・・・>



(出所：オアシス)

先週に開催された FOMC でパウエル FRB 議長は新型コロナウイルス禍に対応した緊急経済支援の引き揚げに向けた最初のステップを説明し、またテーパリングの開始は「早ければ次回会合で決定する可能性がある」と述べ次回 11 月開催の FOMC でテーパリングの開始の宣言を示唆している。

そのため米国債では長期 10 年物国債金利が今年 7 月以来の 1.453%まで上昇しており、今後長期金利は今年 3 月に付けた 1.744%に向けて上昇する可能性は高く、金利を生まない金にとって妙味が欠ける時間帯になると思える。

ただ中国において恒大集団のデフォルト・リスクや北京オリンピックに向けた「デジタル元通貨」の誕生に向けた仮想通貨の取引禁止の動きなど、中国で理財商品から安全資産金への見直しに結び付く可能性は高く、緩やかな右肩下がりの値動きが予想され、金標準先物では 6250 円以上は戻り売りの域と予想される。 (2021 年 9 月 26 日記載)

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD とシグナルが下向きで下げているが、ヒストグラムの乖離幅も弱気（マイナスサイド）で縮小を示し、下げ渋った動きを見せている。また RCI でも短期が切り上げだし、長期が下げるなど乖離が縮小し、転換を示すクロスが発生が予想される事から、目先買い戻しの動きに備えるのが妥当と思える。